

タカワレポート

第77期 期末報告

2022年 1月 1日

▼
2022年 12月 31日



家庭に、企業に、都市の中に。
次代の生活文化を創造する、様々な事業を展開。
インテリア産業の一翼を担う企業として、
これからも時代を先駆ける活動を展開してまいります。

代表取締役社長 池崎久也

ごあいさつ

平素は格別のご支援ご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2022年12月31日をもって第77期（2022年1月1日から2022年12月31日まで）が終了致しましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当該期間の売上高は、主力の室内外装品関連事業が低調に推移しましたが、減速機関連事業においては前年を上回り、連結全体では増収となりました。利益面につきましては、コスト低減活動や一部製品の価格改定等の収益改善に努めましたが、減益となりました。

また、当社グループでは、サステナビリティ経営を強化するため、サステナビリティ推進室を設置し、温室効果ガス排出量削減目標を設定し具体的な取り組みを開始したほか、株主還元を目的に自己株式の取得や株主優待を拡充するなど、企業価値向上に取り組みました。

これからも事業を通じて、環境に配慮した取り組みを行い、持続可能な社会への貢献を目指し、積極的な活動を推進してまいります。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年3月

経営の基本方針

当社グループは、ブラインド類・間仕切類を事業の核とするインテリアメーカーとして、また、長年培ってきた歯車技術を活かした機械式立体駐車装置、減速機メーカーとして今日に至っております。

その時代の要請に応え、お客様の信頼を得ることを第一に、国内外の多様な要望に応えることのできる製品の研究開発・生産の充実と高品質なサービスの提供により、生活環境の改善を図り、皆様の期待に応えることを経営の基本方針としております。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、景気に持ち直しの動きが見られたものの、未だにその終息は見えず、更に原材料価格の高騰や、急激な円安進行、ウクライナ情勢の長期化等によるサプライチェーンの混乱等、事業環境は先行き不透明な状況が続きました。

当社グループ関連の建設・住宅業界は、住宅着工戸数が減少傾向にあり、特に戸建の着工減少が顕著でした。また、長期的に見ても世帯数の減少や住宅の長寿命化等により住宅着工戸数が年々減少傾向にある等、厳しい環境となっております。

このような環境の下、室内外装具関連事業においては、生活様式や働き方が大きく変化する中、多様化するニーズに応じた、より安心・安全で快適な住空間づくりを目指し、顧客満足度の高い製品の開発および新製品の市場浸透に注力しました。また、当社ウェブサイトの全面リニューアルやSNSを活用した情報発信等により、デジタルマーケティングの強化を図りました。生産面においては主力生産拠点のひとつである滋賀工場に、最新の塗装ラインや自動倉庫を備えた塗装棟を新設し、生産の効率化やBCP（事業継続計画）への対応強化を図りました。

駐車場装置関連事業においては、くし歯式の強みを活かした営業展開により新規開拓に取り組むとともに、既設物件に対する計画的な改修提案や付加価値提案を推進し、受注・収益の獲得に努めてまいりました。

減速機関連事業においては、顧客ニーズに応えた個別製品の開発による提案営業を進め、新規顧客獲得に注力するとともに、生産体制の改善等による収益獲得に努めてまいりました。

加えて、当社グループでは、サステナビリティ経営を強化するため、サステナビリティ推進室を設置し、温室効果ガス排出量を2030年度までに、2021年度から30%削減する目標を定めた上で具体的な取り組みを開始しました。また、株主還元を目的に自己株式の取得や株主優待を拡充するなど、企業価値向上に取り組ましました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は41,296百万円(前期比0.1%増)、営業利益は3,822百万円(前期比16.1%減)、経常利益は4,005百万円(前期比14.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,520百万円(前期比12.1%減)となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当該会計基準等を適用しなかった場合の売上高は41,582百万円(前期比0.8%増)、営業利益は3,913百万円(前期比14.1%減)であります。

業績の見通し

今後の見通しにつきまして、国内景気は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和などにより、次第に回復に向かうことが期待されますが、一方で原材料価格の高騰やサプライチェーンの混乱等は依然続くことが想定され、事業環境を取り巻く状況は先行きが不透明です。

これらを踏まえ、次期の業績につきましては、売上高42,800百万円、営業利益4,070百万円、経常利益4,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,700百万円を見込んでおります。

期末配当金について

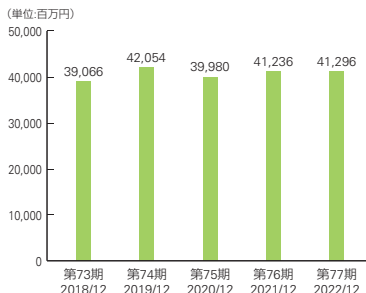
当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として認識し、企業価値および株主価値の向上に取り組んでおります。利益分配につきましては、配当水準を維持または増配を継続することを基本方針とし、将来の事業展開と財務基盤の強化に必要な内部留保を確保しながら、安定・継続的な配当を行っております。

上記の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株当たり21円とさせていただきます。これにより、1株当たりの年間配当金は31円(うち中間配当金10円)となる予定です。

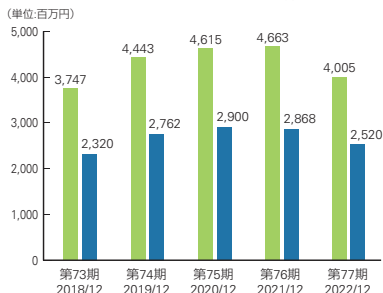
次期におきましては、業績予想および配当の基本方針等を総合的に鑑み、1株当たり36円(中間配当金12円、期末配当金24円)を予定しております。

財務ハイライト

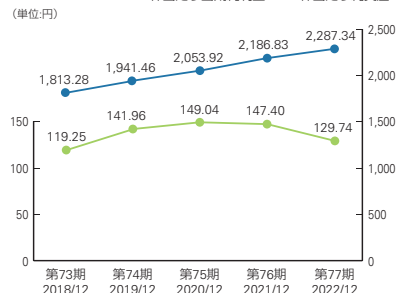
売上高



経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益・1株当たり純資産



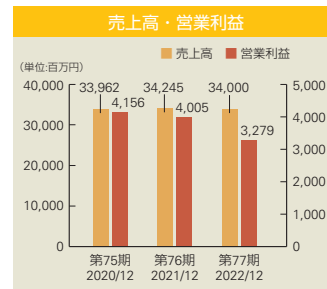
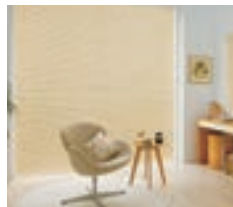
室内外装品関連事業 34,000百万円

スマートで便利な暮らしの提案として、住宅向け電動カーテンレール『スマートインテリアシェード ホームタコス ティエルモ』や、シンプルなデザインで様々なシーンにフィットする裝飾カーテンレール『マルティ』を2月に発売したほか、5月にはブリーツスクリーンのリニューアルを行い、『ペルレ ダブル』『スマートインテリアシェード ホームタコス ペルレ ダブル』、ハニカムスクリーン『ブレア ペア』等、窓まわりの断熱による省エネ効果に優れた製品を市場導入しました。更に10月には調光ロールスクリーン『デュオレ』のリニューアルや、電動木製ブラインド『フォレティア電動』のラインナップ拡充を行い、新製品の市場導入により需要の活性化を図ると共に、対面とオンラインを使い分けた販促活動により市場浸透に努めました。

その他、おうち時間の増加による室内空間の間仕切りニーズの高まりを受け、機能と納まりに優れた間仕切り『ブレイス スウィング』の訴求に注力しました。

しかしながら、売上高は34,000百万円(前期比0.7%減)となり、営業利益につきましては、コスト低減活動や一部製品の価格改定等の収益改善

に努めましたが、原材料を中心とした物価高騰が影響し、3,279百万円(前期比18.1%減)となりました。なお、収益認識会計基準等を適用しなかった場合の売上高は34,279百万円(前期比0.1%増)、営業利益は3,363百万円(前期比16.0%減)であります。



連結セグメント別
売上高構成比
合計
41,296百万円

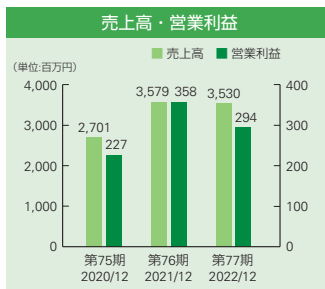
82.3%

8.6%

9.1%

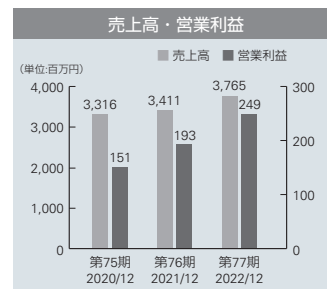
駐車場装置関連事業 3,530百万円

付加価値提案により改造改修案件の受注は堅調に推移しましたが、新築工事における主力の「バズルタワー」の大型物件が減少し、売上高は3,530百万円(前期比1.4%減)となりました。営業利益につきましては、売上高の減少や資材価格高騰影響等により、294百万円(前期比17.9%減)となりました。



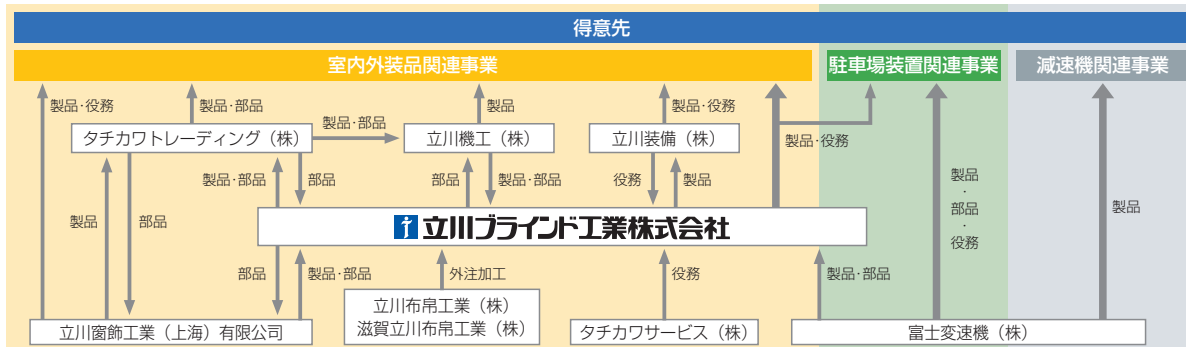
減速機関連事業 3,765百万円

設備投資の市況回復に支えられ、定番品に加え無人搬送台車駆動用減速機など、当社が得意とする個別製品をはじめとした、各種産業用減速機の受注が堅調に推移したことにより、売上高は3,765百万円(前期比10.4%増)となりました。営業利益につきましては、原材料価格高騰の影響もありましたが、売上高の増加により249百万円(前期比28.6%増)となりました。なお、収益認識会計基準等を適用しなかった場合の売上高は3,771百万円(前期比10.6%増)、営業利益は255百万円(前期比32.0%増)であります。



当社グループ（連結会社）は、当社および連結子会社8社で構成され、室内外装関連製品、機械式立体駐車装置等の製造販売およびそれらの設計施工を主な内容とし、さらに各事業に関連するサービス等の事業活動を展開しております。

■ 事業の系統図



(注) 富士変速機（株）は名古屋証券取引所に上場しております。

■ 主なグループ会社

立川機工株式会社	立川装備株式会社	富士変速機株式会社
ブラインド、間仕切等の部品およびカーテンレールの製造販売	ブラインド、間仕切等の据付および関連製品の販売	変速機、減速機、立体駐車装置および間仕切の製造販売

■ 中長期的な会社の経営戦略

当社グループでは、厳しい経営環境下においても安定した収益を計上できる事業体制の構築に向け、以下を優先課題としております。

① 時代の要請とニーズに応えた製品開発と市場導入

多様化するニーズに応じた、安心・安全で快適な住空間づくりを目指し、環境に配慮した顧客満足度の高い製品を開発・提供してまいります。

② 成長分野への取り組み強化

需要が高まる電動製品や間仕切り製品等、成長製品の訴求強化や、リフォーム市場等の成長分野への取り組みを強化してまいります。

③ 生産体制の強化

原材料の世界的なひっ迫や価格高騰が続く中においても、高品質かつ安定供給を維持し、また、生産拠点の整備や生産品目の適正化、並びに在庫の適正化に注力してまいります。

④ 経営資源の整備

将来にわたる安定的な収益基盤構築およびリスクマネジメント強化を図る為、人材を確保し、事業拠点等の経営資源を計画的に整備してまいります。

⑤ サステナビリティへの取り組み

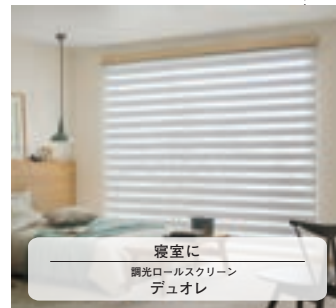
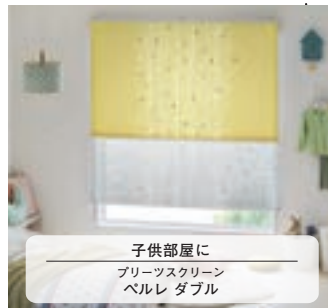
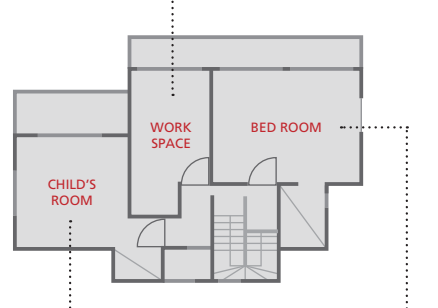
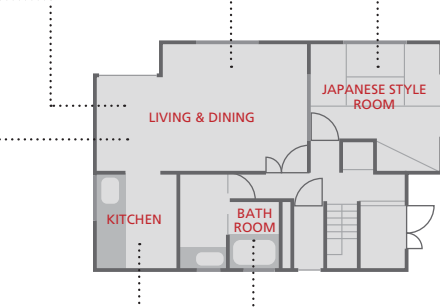
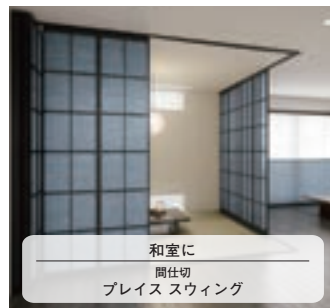
社会課題となっている気候変動の抑止に向けて、遮蔽性能や遮熱・断熱効果を高めた製品等の開発を通じて、建築物内外の省エネに継続して取り組んでまいります。

さらに、サステナビリティ経営を強固なものとするため、温室効果ガス排出量の削減目標達成に取り組んでまいります。

また、時代にあった働き方の追求や、地域限定等の柔軟な採用、人材育成を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

人と光のあいだに優しい快適を

タチカワブラインドでは、
豊富なバリエーションを取り揃え、
快適な環境づくりにお応えします。



メーカーとしての原点を忘れることなく、 真摯な「モノづくり」で信頼と実績を明日へつなげます。

私たちの事業は、オーダーメイド。

多彩なアイテム、自由なスタイル、最適なタイミングで、ひとつひとついねいにお届けしています。お客様のニーズによりきめ細かくお応えするために、モノづくりの原点といえるスタイルを貫いています。そして、よりよい品質の製品づくりを目指して、日々、素材、機能、デザインの追求に力を注いでいます。製品そのものが、さまざまな空間に高い省エネ効果をもたらすのはもちろんのこと、製品をつくる工程でも環境負荷を低減する活動を展開しています。また、原料選びにおいても、できる限り環境負荷の少ない素材を厳選しています。

モノづくりの原点を大切にすると、人と環境に優しい上質な製品を創造する技術をもって——。「業界初を生み出していく」私たちの挑戦は、これからもずっと続いていきます。

タチカワブラインドの事業展開

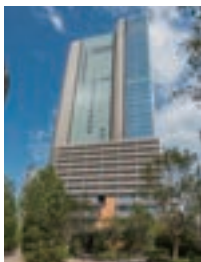
OFFICE

高度化するビジネス空間を、
もっと快適に。

オフィスで働く人たちが
仕事に専念できる環境をつくるために。
優れた操作性や省エネ効果の高いブラインドなどを取り
揃え、あらゆる快適空間づくりの提案を行っています。



丸の内ビルディング



赤坂インターシティAIR

HOME

光を演出する、
お部屋をコーディネートする。

本当にリラックスでき、
快適さを実感できる空間とはなにか…。
私たちは、性能、素材、色彩など、
さまざまな視点からその本質をつねに追求
しています。

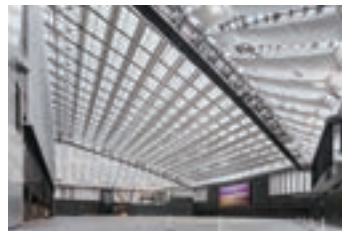


パーフェクトシルキーチェーン

PUBLIC

公共施設にふさわしい
快適性を追求。

タチカワブラインドは、今までに庁舎、ホ
テル、学校、病院、スポーツ施設など、都
市のシンボルとなる建築物をはじめとした
さまざまな公共施設に納入した確かな実績
を誇ります。



新宿住友ビル三角広場



インテリアメーカーらしい洗練された
分かりやすいデザインに刷新



ウェブサイト リニューアル

2022年10月、ウェブサイトを全面リニューアルしました。
デザインを刷新するとともに、「一般のお客様向けページ」と「ビジネスのお客
様向けページ」を設け、目的の情報を探しやすいサイト構成にしました。
「マイルームシミュレーション」や「フォトギャラリー」などお客様の製品選びに
活用いただける新たなコンテンツも充実させ、企業情報・IR情報なども見やすく
なりました。

ぜひ、新しくなったウェブサイトをご覧ください。

<https://www.blind.co.jp>



2022年に発売した新製品やトピックスをご紹介します。

ブリーツスクリーン『ペルレ ダブル』・『ホームタコス ペルレ ダブル』 ハニカムスクリーン『ブレア ペア』 新発売

[2022年5月]

ブリーツスクリーン『ペルレ ダブル』・『ホームタコス ペルレ ダブル』、ハニカムスクリーン『ブレア ペア』を新発売しました。

『ペルレ ダブル』は、25mm幅にブリーツしたドレープ生地とレース生地を前後に配置した二重構造で、窓まわりの断熱性を高めることができ、省エネ効果に優れています。

また、リモコンやスイッチで簡単に操作ができる窓まわりの電動製品『ホームタコス ペルレ ダブル』にも対応。

おうち時間をより快適に、暮らしに選択肢をご提案します。



『ペルレ ダブル』

TOPICS 01

間仕切『プレイス スウィング』でかなえる「快適」と「省エネ」

『プレイス スウィング』は、スリムなフレームで、スタイリッシュなデザインが特長です。

お部屋を仕切ることで、空調効率を高めたり、“もう一部屋”をつくったりすることができ、「快適」と「省エネ」をかなえます。

- 用途に合わせて格納方式と出入りの方法が選べます。
- スペースが限られた場所でもコンパクトに納まります。
- 軽量のパネル構造なので軽い力で操作でき、指挟み防止や足元の安全性にも配慮したデザイン。



『プレイス スウィング』(格納方式・出入りの方法：引戸)



『プレイス スウィング』(格納方式・出入りの方法：折戸)

※住宅の階段に扉を設置することは、避難経路を確保するために、自治体や消防署によって規制されている場合があります。扉を設置する際は事前に自治体や消防署にご確認ください。

調光ロールスクリーン『デュオレ』・『デュオレスリム』 新たな質感・カラーが新登場！ 【2022年10月】

調光ロールスクリーン『デュオレ』・『デュオレスリム』に、自分らしいライフスタイルをかなえる豊富な生地ラインナップを拡充し、発売しました。

色合いや質感、レース部の透け感にもこだわった新しいデュオレで、インテリアの楽しみがさらに広がります。

▼ ボイル生地



▼ メッシュ生地



レース部の透け感を抑えた生地や遮光生地のパリエーションも増えました。



写真左：タテ型ブラインド「ラインドレープ」（生地：ライフ）、右：「デュオレ」（生地：クエンテ）

窓まわりの電動製品で 安全・安心・快適な暮らしを

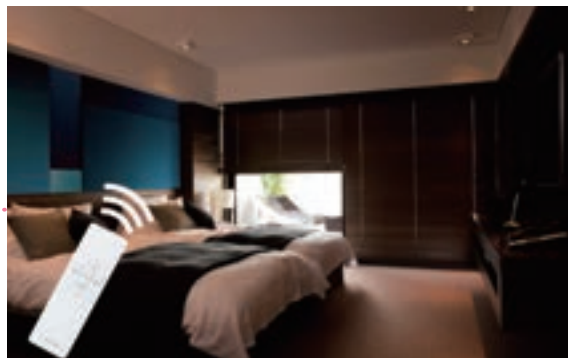
当社は、すべての人が安全・安心・快適に過ごせる暮らしを実現するため、窓まわりの電動化を推進しています。ヨコ型ブラインドやタテ型ブラインド、ロールスクリーンをはじめとするファブリック製品など、多彩なラインナップに対応しています。

リモコンでの操作はもちろん、市販のスマート家電リモコン（赤外線家電リモコン）と組み合わせることでスマートスピーカーやスマートフォンでの操作も可能です。

新たな技術を積極的に取り入れ、多彩な操作方法をご用意することで、すべての人が安全・安心・快適に過ごせる暮らしを実現していきます。



その場から動かすに、ボタンで操作できるので、ご高齢の方やお子さまにも安心。操作コードやチェーンがないから、お子さまやペットが引っかかる心配がありません。



木製ブラインド「フォレティア 電動」（2022年10月発売）

サステナビリティ活動の推進

当社は、継続的な成長と持続可能な地球環境・社会を同時に目指すサステナビリティ経営の強化を図るため、サステナビリティ推進室を設置し、当社グループでの温室効果ガス排出量を2030年度までに2021年度比30%削減する目標設定を行うなど、具体的な取り組みを開始しました。

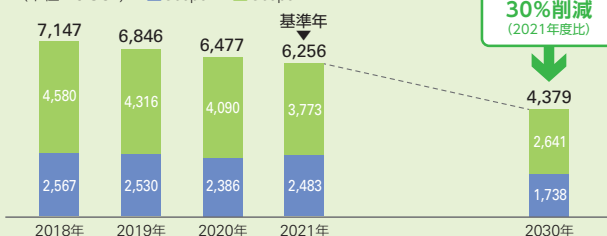
温室効果ガス排出量削減目標の設定

カーボンニュートラルに向け、当社グループの事業活動により排出される温室効果ガス（GHG）排出量を削減することを重要課題と捉え、2030年度までに基準年（2021年度）から30%削減する目標を設定。

- ① 製造工程の省エネルギー化の推進
- ② 各事業拠点のLED照明への移行等による電気使用量の削減
- ③ 営業車両の電気自動車等への移行

● 当社グループの温室効果ガス（GHG）排出量推移及び削減目標

（単位：t-CO₂） ■ Scope1 ■ Scope2



※ Scope1：当社グループの燃料（ガソリン・灯油等）使用に伴う直接排出
Scope2：当社グループがCO₂を排出する発電方法による電気の購入・使用に伴う間接排出

SDGsへの取り組み

当社は、SDGsに賛同し、ブラインドや間仕切をはじめとするインテリア製品を通じて、「人にやさしい快適な環境づくり」を提案するとともに、今後も環境負荷を低減しながら、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

● SDGsの目標達成のため、当社は5つの項目に重点をおいて取り組んでいます。

建築物内外の生活環境の改善



- 高機能・高品質な製品開発、省エネに寄与する製品開発
- インテリアデザインの追求
- 最新技術への取り組み
- 安全・安心の追求

環境負荷低減



- ISO14001に基づく活動
- CO₂排出削減
- 廃棄物の削減
- 水の管理
- 資源の有効活用

働きやすい労働環境と社員の多様性



- 社員の多様性と柔軟な働き方の推進
- 人材育成
- 社員の健康管理の増進

持続可能性かつ透明性の高い企業活動



- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント

社会貢献活動



- 主な活動内容
被災地支援等、更生保護財団の設立



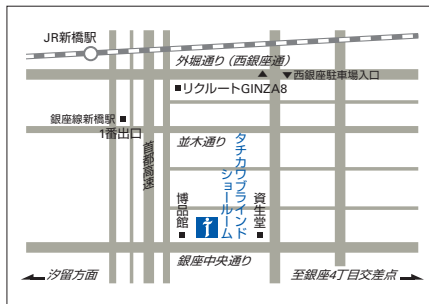
詳しい取り組みは当社ホームページをご覧ください。



<https://www.blind.co.jp/company/sdgs/>

銀座ショールーム

タチカワブラインド銀座ショールームでは、お客様に満足いただけるよう、豊富なインテリアの知識をもったスタッフが、新製品の紹介をはじめ新しいコーディネート提案など、窓まわりや間仕切り製品のいろいろな可能性をお伝えしています。ご相談予約はWEB予約で承っております。



〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル
TEL (03) 3571-1373

営業時間/10:00~18:00 定休日/月曜・祝日(土・日曜除く)

- JR・銀座線新橋駅より徒歩5分
- 銀座4丁目交差点より徒歩8分

バーチャルショールームはこちら

「バーチャルショールーム」では、ブラインドやロールスクリーンなどの窓まわり製品、カーテンレール、間仕切りなどの製品を多数展示している館内を見ることができ、画面上のアイコンをクリックすると、おすすめ製品の紹介や操作方法の動画をご覧いただけます。



<https://www.blind.co.jp/showroom/detail/ginza/virtual/>



ショールーム一覧

札幌ショールーム	北海道札幌市中央区南三条西12-325-3 3F TEL (011) 231-8051 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00	大阪ショールーム	大阪府大阪市北区中津2-3-5 2F TEL (06) 6374-1813 定休日 日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
仙台ショールーム	宮城県仙台市青葉区宮町5-1-12 1F TEL (022) 275-1311 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00	高松ショールーム	香川県高松市木太町六区2662-1 1F TEL (087) 837-2720 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00
信越ショールーム	新潟県新潟市東区大形本町1-2-23 TEL (025) 270-8111 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00	広島ショールーム	広島県広島市南区東雲本町3-1-31 1F TEL (082) 284-1412 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
横浜ショールーム	神奈川県横浜市中区日本大通15 横浜朝日会館2F TEL (045) 662-0838 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30	福岡ショールーム	福岡県福岡市中央区大手門1-4-5 1F TEL (092) 739-0203 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 9:00~17:30
名古屋ショールーム	愛知県名古屋市西区児玉3-4-4 3F TEL (052) 532-5085 定休日 日曜・祝日 営業時間 9:00~17:30	上海ショールーム	中華人民共和国上海市徐匯区宜山路290号 TEL 0086-21-5396-6803 定休日 春節 営業時間 9:00~18:00
金沢ショールーム	石川県金沢市東力4-181 1F TEL (076) 291-1146 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30		

新宿ショールームは、2023年3月31日をもちまして閉館致しました。
これまでご愛顧を賜り誠にありがとうございました。

■ 総資産

流動資産は39,966百万円で、前連結会計年度末と比較し496百万円の減少となりました。これは主に、電子記録債権、棚卸資産が増加した一方で、現金及び預金が減少したことによるものであります。

固定資産は22,620百万円で、前連結会計年度末と比較し2,395百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得や、投資有価証券の取得によるものであります。

■ 負債

負債は13,954百万円で、前連結会計年度末と比較し440百万円の増加となりました。これは主に、未払法人税等が減少した一方で、電子記録債務、未払金、退職給付に係る負債が増加したことによるものであります。

■ 純資産

純資産は48,632百万円で、前連結会計年度末と比較し1,458百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。なお、自己資本比率は前連結会計年度末と同率の70.1%となりました。

■ キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、15,978百万円（前期末17,927百万円）となりました。これは営業活動、投資活動、財務活動によるキャッシュ・フロー等の合計が1,949百万円減少したことによるものであります。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動による資金は、2,140百万円の増加（前期は2,128百万円の増加）となりました。

これは税金等調整前当期純利益4,027百万円に対し、減価償却費965百万円による増加があった一方で、棚卸資産の増加額1,079百万円、法人税等の支払額1,568百万円等による減少があったことによるものであります。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動による資金は、3,040百万円の減少（前期は2,011百万円の減少）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出2,474百万円、投資有価証券の取得による支出601百万円によるものであります。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動による資金は、1,064百万円の減少（前期は679百万円の減少）となりました。

これは主に、配当金の支払629百万円、自己株式の取得による支出313百万円等によるものであります。

連結貸借対照表

（単位：千円） （単位：百万円）

科目	当期 2022年12月31日現在	前期 2021年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	39,966,209	40,462,886	△ 496
固定資産	22,620,483	20,224,901	2,395
資産合計	62,586,693	60,687,788	1,898
負債の部			
流動負債	10,969,280	10,987,958	△ 18
固定負債	2,985,254	2,526,368	458
負債合計	13,954,535	13,514,326	440
純資産の部			
株主資本	43,825,183	42,202,231	1,622
資本金	4,475,000	4,475,000	-
資本剰余金	4,395,094	4,395,060	0
利益剰余金	35,941,556	34,004,861	1,936
自己株式	△986,467	△ 672,690	△ 313
その他の包括利益累計額	46,039	346,017	△ 299
非支配株主持分	4,760,935	4,625,212	135
純資産合計	48,632,158	47,173,461	1,458
負債・純資産合計	62,586,693	60,687,788	1,898

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	当期	前期
	2022年 1月 1日から 2022年12月31日まで	2021年 1月 1日から 2021年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,140,078	2,128,164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,040,476	△ 2,011,210
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,064,418	△ 679,001
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,916	33,027
現金及び現金同等物の増減額（△減少額）	△1,949,899	△ 529,019
現金及び現金同等物の期首残高	17,927,970	18,456,990
現金及び現金同等物の期末残高	15,978,071	17,927,970

連結株主資本等変動計算書

当期 2022年 1月 1日から 2022年12月31日まで	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
2022年1月1日残高	4,475,000	4,395,060	34,004,861	△ 672,690	42,202,231
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△583,696		△583,696
親会社株主に帰属する当期純利益			2,520,390		2,520,390
自己株式の取得				△313,810	△313,810
自己株式の処分		33		33	67
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計		33	1,936,694	△313,776	1,622,951
2022年12月31日残高	4,475,000	4,395,094	35,941,556	△986,467	43,825,183

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	2022年1月1日から 2022年12月31日まで	2021年1月1日から 2021年12月31日まで
売上高	41,296,102	41,236,839
(前期比)	(+0.1%)	(+3.1%)
売上原価	24,366,430	23,344,971
売上総利益	16,929,671	17,891,867
販売費及び一般管理費	13,107,062	13,334,268
営業利益	3,822,609	4,557,599
(前期比)	(△16.1%)	(+0.5%)
営業外収益	196,226	201,149
営業外費用	13,412	95,532
経常利益	4,005,423	4,663,216
特別利益	75,143	32,324
特別損失	53,178	164,447
税金等調整前当期純利益	4,027,388	4,531,093
法人税、住民税及び事業税	1,240,484	1,529,324
法人税等調整額	106,842	△27,811
当期純利益	2,680,061	3,029,581
非支配株主に帰属する当期純利益	159,670	161,579
親会社株主に帰属する当期純利益	2,520,390	2,868,002

セグメント情報

(単位：千円)

当期	室内外装品 関連事業	駐車場装置 関連事業	減速機 関連事業
2022年1月1日から 2022年12月31日まで			
売上高	34,000,300	3,530,283	3,765,518
(前期比)	(△0.7%)	(△1.4%)	(+10.4%)
営業利益	3,279,176	294,132	249,300
(前期比)	(△18.1%)	(△17.9%)	(+28.6%)

(単位：千円)

その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
321,484	559	57,993	△34,020	346,017	4,625,212	47,173,461
						△583,696
						2,520,390
						△313,810
						67
42,207	△10,223	14,579	△346,541	△299,977	135,722	△164,255
42,207	△10,223	14,579	△346,541	△299,977	135,722	1,458,696
363,692	△9,663	72,572	△380,562	46,039	4,760,935	48,632,158

貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期	前期
	2022年12月31日現在	2021年12月31日現在
資産の部		
流動資産	26,584,024	26,930,150
固定資産	18,600,988	16,781,795
資産合計	45,185,012	43,711,945
負債の部		
流動負債	8,194,482	8,053,261
固定負債	1,923,916	1,853,077
負債合計	10,118,398	9,906,338
純資産の部		
株主資本	34,772,227	33,501,620
資本金	4,475,000	4,475,000
資本剰余金	4,395,094	4,395,060
利益剰余金	26,888,600	25,304,250
自己株式	△986,467	△672,690
評価・換算差額等	294,386	303,986
純資産合計	35,066,613	33,805,606
負債・純資産合計	45,185,012	43,711,945

損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	2022年1月1日から 2022年12月31日まで	2021年1月1日から 2021年12月31日まで
売上高	31,112,128	31,618,384
売上原価	17,436,221	17,101,683
売上総利益	13,675,907	14,516,701
販売費及び一般管理費	11,135,622	11,389,798
営業利益	2,540,284	3,126,902
営業外収益	621,447	584,583
営業外費用	77,478	152,769
経常利益	3,084,253	3,558,716
特別利益	63,185	28,472
特別損失	49,602	160,319
税引前当期純利益	3,097,837	3,426,869
法人税、住民税及び事業税	841,855	1,084,649
法人税等調整額	87,934	△28,490
当期純利益	2,168,046	2,370,710

■ 会社の概要

社名	立川ブラインド工業株式会社
英文社名	TACHIKAWA CORPORATION
創業	1938年(昭和13年)5月
設立	1947年(昭和22年)10月
資本金	44億7,500万円
国土交通大臣許可	内装仕上工事業(般-2)第5037号 建具工事業(般-2)第5037号 機械器具設置工事業(般-2)第5037号 建築工事業(特-2)第5037号
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7989
本社所在地	東京都港区三田三丁目1番12号
電話	(03) 5484-6140
ホームページアドレス	https://www.blind.co.jp
従業員数	連結1,269名 単体808名 ※パート・契約社員等を除く

■ 営業品目

区分	品目の内容
ブラインド類	ヨコ型ブラインド、タテ型ブラインド、 天窓用ブラインド、ロールスクリーン等
間仕切類	アコーディオン式間仕切、パネル式間仕切
その他	カーテンレール、製品取付、その他

■ 連結会社

国内	
富士変速機株式会社 岐阜県岐阜市中洲町18	タチカワトレーディング株式会社 東京都港区三田3-1-12
立川機工株式会社 千葉県山武市松ヶ谷口2687	タチカワサービス株式会社 東京都港区三田3-1-12
立川装備株式会社 東京都渋谷区代々木2-16-4	
立川布帛工業株式会社 新潟県五泉市今泉709-1	
滋賀立川布帛工業株式会社 滋賀県愛知郡愛荘町東円堂923-1	立川窗飾工業(上海)有限公司 上海市嘉定区葉城路1630号

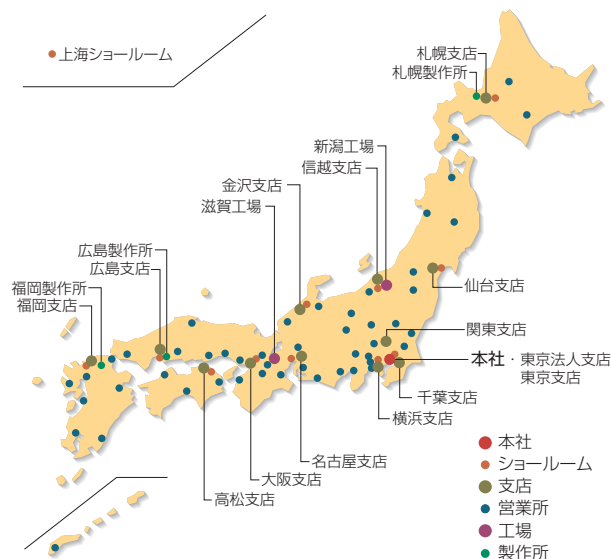
海外

■ 取締役および監査役 (2023年3月30日現在)

代表取締役会長	立川 光 威
代表取締役社長	池崎 久 也
取締役	小野 寿 也
取締役	立川 孟 視
取締役	佐藤 弘
取締役	藤堂 孝 夫
取締役	田中 久 晶
取締役	宮本 實 ※1
取締役	加藤 昌 子 ※1
常勤監査役	栗原 斉
監査役	芹澤 眞 澄 ※2
監査役	齊藤 次 郎 ※2

(注) ※1 取締役のうち宮本實氏および加藤昌子氏は社外取締役であります。
※2 監査役のうち芹澤眞澄氏および齊藤次郎氏は社外監査役であります。

■ 当社ネットワーク



■ 株式の状況

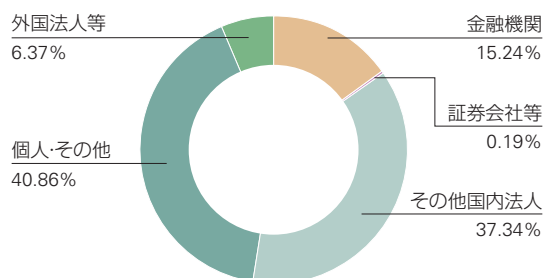
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	20,763,600株
株主数	7,675名

大株主および持株数（上位10名）

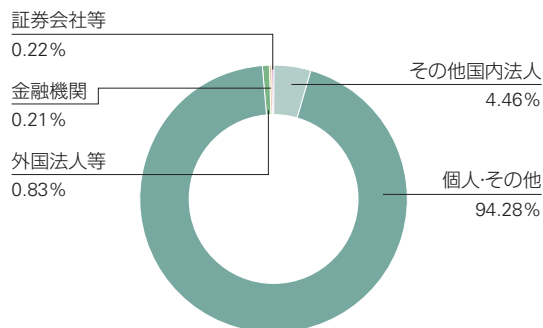
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
有限会社立川恒産	4,117	21.51
タチカワプラインド取引先持株会	2,066	10.79
更生保護法人立川更生保護財団	1,331	6.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,059	5.53
株式会社三菱UFJ銀行	503	2.63
立川 光威	498	2.60
株式会社りそな銀行	460	2.41
日本生命保険相互会社	373	1.95
天馬株式会社	304	1.59
タチカワ社員持株会	293	1.53

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 2. 当社は自己株式1,583千株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

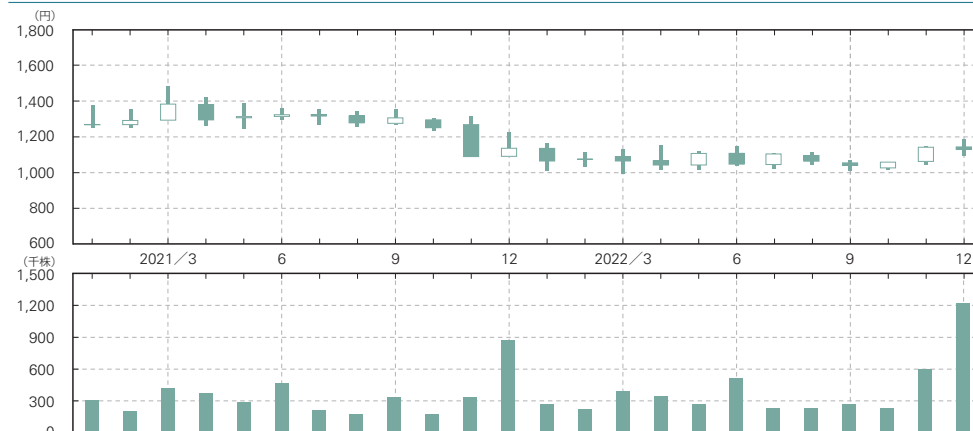
■ 所有者別持株比率



■ 所有者別株主比率

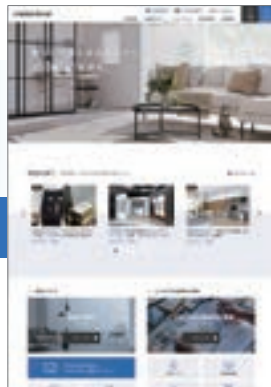


■ 株価および出来高の推移



当社ウェブサイトでは決算短信などのIR情報や、当社事業や製品・サービスなどさまざまな情報を発信しております。

<https://www.blind.co.jp>



株主優待のご案内



〔優待内容〕クオカード（イメージ）



● オリジナルクオカードの贈呈（100株以上保有の株主様）

基準日：12月末日（年1回）

保有株式数・保有期間に応じて、オリジナルクオカードを以下の通り贈呈いたします。

保有株式数	保有期間	
	3年未満	3年以上
100株以上 300株未満	500円分	1,000円分
300株以上 500株未満	1,500円分	2,000円分
500株以上 1,000株未満	3,000円分	4,000円分
1,000株以上	4,000円分	5,000円分

事業年度 1月1日～12月31日
 定時株主総会 毎年3月
 定時株主総会基準日 12月31日
 剰余金配当基準日 12月31日（期末配当）
 6月30日（中間配当）

公告方法 電子公告によります。
 公告掲載URL
<https://www.blind.co.jp/koukoku/>
 ※事故その他のやむを得ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座管理機関 日本証券代行株式会社
 単元株式数 100株

登録情報（ご住所、配当金振込先など）の変更、その他諸手続きについて

一般口座の株主さまは、お取引口座のある証券会社にてお取り扱いしております。
 特別口座の株主さまは、特別口座管理機関 日本証券代行（株）へお問い合わせ下さい。

配当金の受取りについて

配当金領収証をお近くのゆうちょ銀行または郵便局へお持ち下さい。
 また今後、銀行振込をご希望の方は、お取引口座のある証券会社等または特別口座管理機関 日本証券代行（株）へお問い合わせ下さい。

未受領の配当金の受取りについて

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行（株）証券代行部までお問い合わせ下さい。

単元未満株式（100株未満の株式）の買取・買増請求について

一般口座の株主さまは、お取引口座のある証券会社にてお取り扱いしております。
 特別口座の株主さまは、特別口座管理機関 日本証券代行（株）へお問い合わせ下さい。

特別口座から一般口座への株式振替のお願い

特別口座管理機関 日本証券代行（株）へお問い合わせ下さい。

注）特別口座のままでは市場において株式を売却することはできませんので、必ず証券会社に一般口座を開設（既に開設されている場合不要）し、特別口座から一般口座へ振替申請を行って下さい。

>> 郵便物送付先・お問い合わせ先

株主名簿管理人	特別口座管理機関
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711（フリーダイヤル） ホームページアドレス https://www.tr.mufg.jp/daikou/	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 ☎ 0120-707-843（フリーダイヤル） ホームページアドレス https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html